

えんくるり事業 News Letter



No.21

令和7年1月発行
鳥取県社会福祉協議会
地域福祉部
TEL0857-59-6332

ひきこもりの状態にある方等の支援について 参加法人の取組紹介

社会福祉法において、社会福祉法人の責務とされている「地域における公益的な取組」について、県内の社会福祉法人の取組を紹介します。

社会福祉法人伯耆の国 いくらの郷 ～ひきこもりの状態にある方等の就労体験事業～



💡「ひきこもりの状態にある方等の就労体験事業」とは？

様々な理由により、ひきこもりの状態にある方等の社会参加や就労へのきっかけとするため、県内の社会福祉法人施設・事業所が対象となる方の状況に合わせた体験等を実施しているものです。これは生計困難者等に対する相談支援事業「えんくるり事業」で令和5年度から取組を開始しました。

いくらの郷も本事業の受け入れ先の一つとして体験を実施しています。今回は相談員の仙田さんにお話を伺いました。

【取組みの経緯・内容】

平成30年5月に地域共生社会実現拠点施設として開所し、学校や社会にうまくなじめていないと感じていたり、社会への第一歩を踏み出せずにいる若者たちの社会参加・社会復帰を支援してきました。しかし、開設当初は1日につき2,000円の体験料を要することが影響したのか、体験者は多く集まりませんでした。生活に困窮している利用者さんも多い中、就職後払いで体験をされる方もいらっしゃる心苦しくもありました。

このような中、令和5年に就労体験事業が始まり、いくらの郷でも8月から受け入れを開始しました。体験に関する経費の補助が出たことで、気になる方に「一度施設での体験に来てみてはどうですか？」と声をかけやすくなりました。就労準備事業所や行政、生活困窮者支援の就労支援機関からの相談をきっかけに体験につながることも多くなりました。この事業ができて、制度等に捉われず支援の幅が広がっています。

利用者さんは、その日の心身の状態によって施設に来られない日もあるので、綿密な体験の計画等は立てず、ご本人の調子や天候によってできる体験を提供しています。一番は「一人ひとりにあった体験」を心がけています。また、いくらの郷を初めて利用する方には、どのような体験をしたいか丁寧に聞き取りをし、利用者さんに寄り添った支援を行っています。どのような体験をしたいか決まらない方には、ヨガや座禅、農林業、編み物、eスポーツ、ハーバリウム制作、他の施設や地域行事への参加、食品加工等の体験メニューの中から興味のあるものに参加いただいています。

【取組みによる成果】



令和6年5月時点で本事業を利用した方は7名で、そのうち1名は体験先での就職が決まりました。また、県外へ進学した方もあり、本事業での体験を含めて2年半の施設での体験が進学へとつながった例もあります。

就職や卒業後も関わりを継続し、それっきりの支援にならないようフォローも行っています。また、1日の体験につき利用者さんへ1,000円の応援金ができるのも、やる気の向上につながり、就労等次のステップに進みやすくなっています。

【利用者の声】

「通う前は人との間に壁を作り、自分の可能性に 限界を決めていました。チェーンソーを使って木を切ったり、草刈り機を使って草を刈ったり、初めての体験で好奇心が湧き上がって来るのを久しぶりに感じました。」

仙田さんは、「利用者さんにとって自分がひきこもっていたという過去は隠して忘れたいのかと思いきや、就職し、いくら郷卒業後も遊びに来て近況報告をしてくれる方々もいます。体験中も卒業後も心落ち着く場所であり、いくら郷があってよかったと思ってもらえる場になっていたら嬉しい」と語ります。

【支援者のコメント】

ひきこもりの状態にある方等への支援に「**正解はない**」と思っています。支援側にできることはゴールを決めるのではなく、**本人の前向きな気持ちが生まれるのを手伝える**ことです。これを支援したらいいという明確な方法はなく、「利用者さんに合わせた様々なアプローチで寄り添っていく」ことが何より大切ではないでしょうか。本人の意思でここに来てもらえるよう、支援側もゆったりとした心を持ち、**私自身も来たいと思える場所づくり**を心がけています。

若者支援という事で色々な取り組みを行っていますが、これまで施設で出会った若者たちはちょっと気弱ですが、素直で正直な若者という印象です。コミュニケーションが苦手な人付き合いが上手くいかずに悩んでいる若者もいます。また、不登校を経験したり、いじめにあったり、社会に出てから仕事が上手くいかず、そのままひきこもってしまったという若者も多いです。

ひきこもりの方は全国で推計140万人以上もいると言われていますが、一人ひとり個性を持ち、事情も違うので、そのサポートは暗闇を手探りで彼方の明かりを目指して行くような活動です。そのような中でも確かな事は、「**実際に体を動かして何かを成し遂げる事で自信を積み重ねていくこと**」です。そのプロセスでどんどん元気になって行き、自分から色々な話をしてくれるようになり、生きる意欲が湧いてくるようです。自然の中での体験を通して他の利用者の方や地域の住民さんと交流を深めることができます。

一方で、近年ひきこもりの方への支援は増えつつありますが、まだまだ普遍的ではありません。当事者たちは引け目を感じて隠すことも多いので、もっと理解のある世の中になればいいと思います。



社会福祉法人尚仁福祉会 相談支援事業所江美の郷 ～ Re:START 支援事業 ～

💡 「Re:START 支援事業」とは？

様々な理由で長期間自宅などから出られず、自宅外の生活の場がない方などを支援する事業です。

「自宅以外に居場所がない」「自宅から出たくないけど、外部とつながりを持ちたい」「仕事をしてみたいけどどうすればいいのかわからない」など、悩みはあるもののどこに相談したらいいかわからない…そういった方からの相談をお伺いしています。

【取り組みの経緯・内容】

高齢者福祉、障がい者福祉を地域で実践する中で、何らかの事情で就労していない、不登校などで自宅にひきこもっている、等のお話を伺うことがありました。しかし、そうした方から直接相談がない中で支援に結びつけづらい状況がありました。そのような中、「すべての町民が孤立することなく暮らせるように」という江府町長の意向もあり、役場とともに、制度につながりにくい複合化した悩みや困りごとを抱える世帯への支援に取り組むこととなりました。令和2年度から事業を開始し、これまで10代～60代の方10名が本事業を利用されています。（令和6年8月時点）



まずは対象者の把握のため法人のネットワークを活用して情報収集、当事者や家族に対し事業説明を行いながら合意形成を行います。

その後、当事者が安心できる居場所、交流できる場を作ることを通じて、段階的な社会参加や就労支援を支援します。

江府町にお住まいの方を対象としており、お子様からお年寄りまで年齢は問いません。ご本人だけではなく、ご家族やまわりの方からのご相談もお受けしています。「自宅以外に居場所がない」「自宅から出たくないけど、外部とつながりを持ちたい」「仕事をしてみたいけどどうすればいいのかわからない」など悩みはあるもののどこに相談したらいいかわからない…そういった方々やご家族の方からのご相談をお伺いしています。本人への直接的なアプローチはなかなかハードルが高いため、まずは家族から本人の趣味等を聞き取り、本人の興味関心のある内容をメールしたり、検診等の情報提供から少しずつ関わりを作ったりしています。

また、尚仁福祉会から相談支援専門員（保健師・公認心理師・介護福祉士）、江府町役場から（福祉事務所の社会福祉士、保健師）が月に一度支援会議を行って一人ひとりに関わっています。ケース共有や経過、情報共有を行い**多職種での連携、様々な視点からのアプローチ**を検討、実施しています。江府町というコンパクトな町だからこそできる支援、顔の見える関係づくりを行っています。

【取組みによる成果】

- ・新型コロナワクチン接種について保健師に相談があり、支援を必要とする方の把握につながり、ご家族が抱えていた思いを少しずつ話していただく中で信頼関係を築くことができました。コロナ禍だからこそ見つけることができた**多職種連携によるきめ細やかなアプローチ**だと感じます。

- ・「在学中はスクールソーシャルワーカーが子どもに関わっていたが、卒業後は相談先がなく困っていたのでこのような相談先ができてありがたい。」という声もあります。ライフステージに捉われない、**切れ目のない支援**ができるのは強みです。

- ・障がいのため家から出かけることが難しい方でしたが、家にいてできることがあれば、仕事をしたいとの思いをもっておられました。就労継続支援B型の在宅支援でパソコン作業ができることをご紹介します、少しずつ時間 を増やしながら取り組んでくださいました。この経験を通して、将来これだったらできるかもしれない、と本人さんにとって**自信や可能性**となればと思います。

- ・年に一度地域住民へ普及啓発、広報を行っています。令和4年度にはとっとりひきこもり生活支援センターの山本理事長をお招きして民生児童委員の方への勉強会を実施しました。この勉強会をきっかけに、色々な働き方があることを当事者の方に伝えてくださり、相談に来てくださった方もおられます。

【利用者の声】

- ・誰にも話せることじゃないと思っていたが、抱えていた思いを聞いて寄り添ってもらえるのは嬉しい。
- ・卒業後でも相談できる場があるのは心強いです。

【支援者のコメント】

- ・まず大切にしているのは信頼関係づくりです。今までの背景やご家族の思い、価値観、どのような生活をしてこられたかなどを丁寧に聞き取り把握するよう努めています。安心して本当の気持ちを話していただけた存在になればと思います。多職種で様々な視点からアプローチできるのもチーム支援の強みだと感じます。ひきこもりに対する偏見の払拭や正しい知識の普及により、理解があり相談しやすい、**誰にとっても住みやすい地域**になればいいなと思います。

- ・「寄り添う」とは言葉にすると簡単ですが、本当に私自身はできているのだろうか、と日々問いながら関わっています。困ったときに相談できる、この人だったら話してみようか、と思ってもらえる存在になれば、という思いで取り組んでいます。

- ・包括の部署もあり、分野に関わらず広く相談を受け付けられるようになっていきます。支援策を考える際に、自身の職種だけではどうしても視野が狭くなりがちのため、多職種、多視点から意見をもらえていい刺激になっています。

- ・複合化した世帯の課題が多いため個別に応じた支援がより一層必要となっています。一部署、一支援で出せる引き出しがとて多く頼もしいです。この相談者の方であればこの職員、という風に相談者にあったより良い支援ができるようにマッチングをしています。今後も強みを生かし、大切にしながら個別対応できたらと考えています。

